

金沢市立兼六中学校
令和元年度 学力向上の取組（3学期）

1 研究主題

「意欲的に学び、共に高め合う生徒の育成 ～学びの基盤づくりを通して～」

2 現状・課題（評価問題の結果、令和元年度学力分析シート等から）

(1)	児童生徒の現状・課題
	<p>＜県評価問題の結果＞</p> <p>国語、数学ともに正答率については市と同程度であったが、無回答率がやや高く、最後まで粘り強く考える姿勢について課題が見られる。</p> <p>①国語科</p> <p>ア成果 大問2「話す力・聞く力」に関する問題は、小問全てにおいて県・市の平均を上回っており、本校の研究の重点である「聴く力・訊く力」の育成について成果が見られた。</p> <p>イ課題 大問1「読む力」大問3「書く力」においては県・市と同程度または下回っており、特に大問1二A「資料から適切な情報を取り出す問題」については、開きが大きく、課題である。</p> <p>②数学科</p> <p>ア成果 数学的な処理能力は、県・市の平均を上回っている。</p> <p>イ課題 数の性質の説明、ヒストグラムの特徴を読み取って説明する、規則性の説明、関数の利用などの数学的な見方・考え方の力に課題がある。</p> <p>＜平成30年度（1年次）との比較＞</p> <p>国語、数学ともに平均正答率の市平均との比較は、1年次より下回った。数学は、証明問題が極端に低かったが、授業の途中であり、定着の時間がなかったことも原因と考えられる。国語は、多くの資料が提示された問題にとまどいが見られた。複数の資料から必要な情報を取り出して考える練習をする必要がある。</p> <p>＜12月生徒アンケート＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の考えを深めたり広げたりできる場がある」の割合は95%で前期に比較して2ポイント増加し、目標の95%に達した。4評価（よくできている）の割合は、54%で、目標を達成できた。 ・「学校は、生徒と先生、生徒同士の温かい人間関係づくりに努めている」と答えた生徒の割合は、86%にとどまり、昨年より2ポイント上昇したが、目標の90%に届いていない。しかし、4評価（よくできている）の割合は、44%で、目標の40%は達成できた。 ・「私は家庭学習に取り組んでいる」生徒の割合は、83%で前期に比較し2ポイント減少した。特に1年生は前期に比べて7ポイント、2年生は6ポイント減少しており、今後に向けて取り組む必要のある課題である。
	<p>(2) 指導の現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話し合う活動を通して、生徒が考えを広げたり深めたりできるよう工夫している」教員の割合は、94%で、昨年より3ポイント、前期より1ポイント上昇した。 ・「温かい人間関係を築くため生徒が互いに認め合い協力しあうよう指導している」教員の割合は、100%で昨年の97%から大きく上回り、成果が見られた。 ・家庭学習が身につくよう指導を心がけている教員の割合は、94%で、昨年度より12ポイント上昇したが、生徒のアンケート結果との乖離があり、課題である。

3 重点的に行う取組と検証

	授業で行う取組		授業以外で行う取組	
	取組①	取組②	取組①	取組②
重点的に行う取組	「聴く力」をつけることを意識して授業を実践する。(例：手遊びせず、相手の方を見て聴く)	自他の意見を比較し、相手に「訊く力」をつけることを意識して授業を実践する。	家庭学習の習慣をつくるために自学ノートに取り組む。 効果的な学習方法を紹介する。	テスト週間の学習を計画的に進める。
検証	方法 教科部会で、「傾聴する」姿勢を育てる手立	方法 自他の意見を比較し、「訊く力」育て	方法 自学ノートを毎日点検し、内容の充	方法 立案の学活を設けるとともに、課題を

の 方 法 状 況	てについて、研修会等 共通理解・共通実践す る。 指標 週1回相互授業参観	る手立てについて、研 修会等で共通理解・共 通実践する。 指標 月に1回以上	実を図る。 指標 毎日点検 1時間以上の家庭学習	一斉点検し、学習状況 を把握する。 指標 学期に2回以上 点検する。
と 指 標	方法 生徒アンケートで 確認する。 指標 肯定的な割合→ 95%以上かつ4評価50% 以上	方法 生徒アンケート で確認する。 指標 肯定的な割合→ 90%以上かつ4評価4 0%以上	方法 生徒アンケートで 確認する。 指標 肯定的な割合→ 85%以上かつ4評価5 0%以上	方法 生徒アンケートで 確認する。 指標 肯定的な割合→ 90%以上かつ4評価50% 以上

4 年間計画

総括（校長）・学校としての目標を立て、検証結果に基づき、改善の方向性を示す。

進捗状況の確認（教頭）・進捗状況に合わせた主任層への適切な指導・助言と校長への報告を行う

役割分担・検証の集約（教務主任等）
・役割分担とスケジュール管理を行う。

学力向上策の立案・推進（研究主任）
・学力向上に係る取組の立案や推進を図る。
実施・検証（各教員）・共通実践を行う。

月	PDCA	授業で行う取組	研究授業	授業以外で行う取組
1月	計画 実践	主幹 が各種学力調査の結果を全教員に周知する。 教科部会 が分析に関わり、成果と課題を明らかにする。 研究主任 が分析結果をまとめ、全教員で共有する。3学期以降の取組について全員に共通理解を図る。		担任 が自学ノートの点検を毎日行う。 主幹 が、学習計画立案の日程を調整。 担任 が、学習計画表を点検し、助言する。 校務分掌部会 で今年度の取り組みの成果と課題をまとめる。 研究主任 が 現職教育だよりで3学期以降の取組について共通理解を図る。
2月	検証 改善	教科部会 が「傾聴する」姿勢を育てる手立てについて、および、自他の意見を比較し、「訊く力」育てる手立てを意識した授業づくりについて成果と課題をまとめる。 学年末テストやワークなどで学力の定着状況を確認する機会を設定し、「学力の向上取組（3学期）」を検証する。 研究主任 が今年度の研究全体の課題と成果をまとめる。 全教員 が 学年末テストの結果を分析し、次年度への課題をまとめる。		全教員 ワークなどの学習課題を一斉点検し、学習状況の把握に努め、次年度へつなげるよう準備をする。 各主任 が今年度の成果と課題を全教員に周知する。
3月	検証 改善	全教員 が研究のまとめを共通理解し、次年度への準備をする。		全教員 生徒一人一人の学習状況および、生徒同士の関係を観察し、次年度への準備をする。